

5万分の1地質図幅「苗場山」

島津光夫(新潟県女子短期大学学長)・立石雅昭(新潟大学助教授)両氏を著者に、特定地質図幅の研究成果として「苗場山」が刊行されました。この地域は新潟県と長野県の県境部に当たります。信濃川(千曲川)が地域の北西部を東に流れています。また、ほぼ中央部を中津川が、西部を志久見川が南から北に流れて、信濃川に合流しています。地域の最高峰は苗場山(標高2145 m)で地域の南端部に位置しております。

この地域は北部フォッサマグナの東部に位置し、新第三紀のグリーンタフを含む中新統、鮮新世—更新世中期の魚沼層群、鳥甲火山・志賀火山群・苗場火山などの第四紀火山岩類が分布しています。この地域は、長野県諏訪地方から北東にのびる「中央隆起帯」の北部に当たり、信越堆積盆地と「中央隆起帯」を画する津南—松本線が図幅北部を北東—南西方向に走るとおもわれます。

中新統は地域の東半分に分布し、下部はいわゆるグリーンタフに相当する中中新世の安山岩を主とする結東層・外ノ川層とデイサイトを主とする清津層です。上部は、中期—後期中新世の碎屑岩を主と

する上野層・大沢層・葎沢(むぐらさわ)層と安山岩を主とする西田尻層です。中津川上流には後期中新世の安山岩およびデイサイトの火砕岩からなる秋山郷累層が分布しています。

鮮新統—下部更新統の魚沼層群は、本地域のおおむね北西部に分布しています。碎屑性堆積岩を主とする魚沼層群は北東部に、火山岩類を主とする魚沼層群は中部および西部に分布しています。魚沼層群は天水山累層・志久見川累層などに区分されており、安山岩溶岩・火砕流堆積物・泥流堆積物・シルト・火山礫凝灰岩などから構成されています。

前期—中期更新世の火山は地域の南部に分布し、安山岩溶岩を主体としています。苗場山は、この地域でもっとも新しい火山ですが、一部は段丘堆積物に覆われ、すでに活動を停止しているものとおもわれます。活動の時期は古期苗場火山噴出物を含めて5期に区分されています。信濃川ぞいには、段丘が広く発達しています。

この地域の中津川ぞいと信濃川ぞいには多数の温泉が分布しています。地域の南東部の苗場山東斜面には「かぐら」および田代スキー場があります。

(T)

地質調査所の出版物について

- 問い合わせ：情報管理普及室 Tel. 0298-54-3606
 卸売：東京地学協会 (東京市ヶ谷, 03-3261-0809)
 日本産業技術振興協会(代行地学情報サービス)
 直接入手：地質標本館 (つくば市, 0298-54-3750)
 直接入手・通信販売：
 地学情報サービス (つくば市, 0298-56-0561)
 関西地図センター (京都市, 075-761-5141)
 東京地学協会 (東京市ヶ谷, 03-3261-0809)
 その他全国主要書店で注文販売いたします。

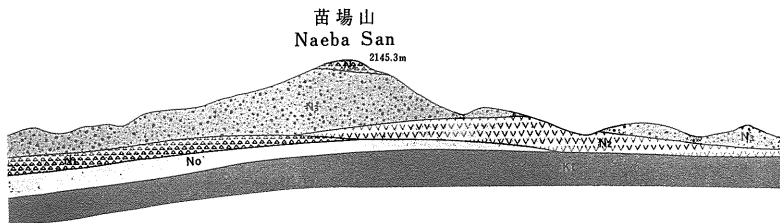


図 苗場山を通るほぼ東西の地質断面図

最下部に中新世結東層(Kt)があり、それをおおって第四紀の苗場火山噴出物が堆積しています(N₀:古期苗場火山噴出物, N₁:第1期, N₂:第2期, N₃:第3期, N₄:第4期の各噴出物)。

I GEOLIS(日本地質文献データベース) 1992年版フロッピーディスク公開のお知らせ

地質調査所が1986年より構築しております上記データベースを、フロッピーディスクにより下記の要領で無償配布いたします。バックナンバーにつきましても同様の要領でお申込下さい。

記

期 間：1994年5月末日まで

データ内容：日本地質文献目録(1986-92年)約53,000論文
申込み方法：依頼文書(自由形式)による。

ただし、以下のものを同封して下さい。

- 地質調査所ソフトウェア利用申請書(暫定)
(必ず自署して下さい。ただし、一度提出されている方は不用です)
- フロッピーディスク5インチ
1986~1990年1年分につき2枚
1991~1992年1年分につき3枚
必要年数を明記し、必要枚数を同封して下さい。
(MS-DOSでフォーマットした2HD)
- 返信用切手貼付、返信先の住所・氏名を記入した返信用封筒(郵便用に限る)

- 利用プログラムが必要な方は、フロッピーディスクを1枚多く入れて下さい。

申込み先：〒305 つくば市東1-1-3

地質調査所 地質情報センター 資料情報課
問い合わせ先：担当者 中沢 Tel. 0298-54-3604

II 地質文献目録1985年版フロッピーディスク公開のお知らせ

1985年以前の地質文献目録からのフロッピーディスク版作成に取り組んでいます。1983・1984年版のフロッピーディスク版の公開につきましては、既に地質ニュース(462号, 1993年2月号)でお知らせいたしました。このたび地質情報センター情報解析課の協力により、1985年版が完成いたしましたので、上記同様お申込下さい。ただし、フロッピーディスクは1年分につき1枚となります。

III 上記のように、1985年版フロッピーディスク版が完成したことにより、地質文献目録1983年から、日本地質文献目録1992年までの10年間分約68,500件の文献のフロッピーディスク版が完成したことになりました。

新刊紹介

地質学のための英語 (河内洋佑著)

愛智出版(Tel : 0425-85-1014, Fax : 0425-83-0968)
1993年6月15日発行, A5版, 317頁, 定価3,800円

地質学の英語論文を書くための手引書は多くない。仕方がないので、化学や物理学向けに書かれた類書を参考にしながら、辞書と首っ引きで地質学の英作文をすることになる。しかし、これらの類書では、地質学特有の表現については当然のことながら解説されていないので、結局あまり役に立たない。このたび出版された本書は、こうした空白を埋める意味で待望の書といえよう。内容ももちろん期待に違わず、充実したものとなっている。

本書の構成は、1：辞書について、2：地質学英語論文の書き方、3：英語論文の査読、4：論文以外の英語によるコミュニケーション、5：地質学関連英単語の解説、6：海外地質見学旅行のためのヒント、付録、となっており、5章の単語解説が全体ページ数の半分を占める。この単語解説は、アルファベット順の辞書配列となっており、使いやすい。ただの対訳ではなく、主要な単語には詳しい解説がされており、とくに誤用の例文が豊富であるのは、とても役に立つ。2章では日本人の犯しやすい間違いが指摘されており、教えられるところが多い。4章には手紙会

話・口頭発表などの仕方が書かれている。会話のときにはネイティブスピーカーでも you was などといている、というようなことが紹介されていて、妙に安心してしまう。6章は文字どおり旅行のヒント集だが、示唆に富んでおり、読んでいて楽しい。付録には英語の歌やユーモアが紹介されている。6章と付録によって、英語圏の文化の片鱗がうかがえる仕組みとなっている。また、巻末には充実した日本語と英語の索引が付けられており、読者に対して行き届いた配慮がなされている。

類書に、今は絶版となっている「地学英語」(太田良平著)があったが、「地学英語」がテーマ別の例文中心であったのにくらべて、本書は単語中心の解説であり、より辞書的なスタイルといえよう。本書に注文をつけるのであれば、印刷がやや悪くてかすれた部分があるのが気になったのと、辞書として酷使するには装丁が弱いのではないかという危惧を抱くことである。増刷の時には再考願えればありがたい。

本書を熟読したからといって、ただちに立派な英語論文が書けるようになるわけではないだろうが、気付かなかったことや見逃していたことが随所で指摘されており、これから英語論文を書こうという人にとっては必携・座右の書である。
(島根大学理学部 小室裕明)